

第3回奈良市子ども・子育て会議の概要

開催日時	平成25年12月19日(木) 午後2時～午後4時
開催場所	奈良市役所 北棟2階 第16会議室
議 題	1. 子ども・子育て支援新制度と奈良市の取組状況について 2. 第2回事業計画策定部会の審議報告について 3. ニーズ調査中間報告について 4. その他
出席者	出席委員12人(欠席委員2人)・事務局8人
開催形態	公開(傍聴者:3人)
担当課	子ども未来部子ども政策課
議事の内容	
1. 子ども・子育て支援新制度と奈良市の取組状況について 事務局より、子ども・子育て支援新制度と奈良市の取組状況について、資料2に基づいて説明を行った。	
〔質疑・意見の要旨〕	
栗本委員	利用者支援事業について、横浜市の例と松戸市の例では少し形体が違うということですが、今後奈良市では、どちらの形体を目指しているのでしょうか。
事務局	現在国におきまして、どちらの方式も今後存続して別のものとして進めていくように議論がされているところです。奈良市では今後、認定こども園の中でも複数の類型があり、そこに幼稚園と保育所のほか、家庭的保育や小規模保育等、様々なものが想定される中で、内容は一体どのようなものなのか、曜日・時間帯・利用料はどうか、保育士の体制はどうか等の様々な情報をきめ細やかに保護者に伝えていき、また初回の相談から保護者の方に寄り添い、入所に至るまでずっと寄り添うような形で進めていきたいという思いを持っています。保育所・幼稚園課では、横浜方式の形で市役所に職員を配置し、保護者の方に寄り添う形で進めていきたいと思っています。
事務局	松戸市の形態の拠点における子育て支援コーディネーターの設置ということで、25年度までは地域子育て支援拠点事業において利用者支援を行うということでしたが、国の方向性が変わって拠点事業とは別立ての利用者支援事業ということで、コーディネーター等を設置していくということです。26年度については、地域子育て拠点におけるコーディネーターの養成に向けて検討していく段階であると考えています。保育所・幼稚園課の取組と併せながら、各課への連携もできるようなコーディネーターを養成していくような講座等を設けていこうと思っています。

大方会長 介護保険ではケアマネジャーが利用者や対象者を見て介護の認定を行い、サービスの情報提供を行っていますが、保育では子育て支援という言葉がたくさん出ているものの、実際に利用する側は何があるのかわかりにくく、事業があることもご存知ないかもしれません。横浜市は区の中で実施していて、松戸市は拠点の子育て支援で実施しているという現状です。国としても必要性があり、補助金を出すので事業をやってくださいという方向性ですが、この子ども・子育て会議もそうですが、日々内容が変わっていますので、どうなっていくのか分かりにくいところがあります。ただ、奈良市では既に予定しており、横浜市と松戸市の両方を含めて実施しているというご回答だったと思います。

藤本委員 横浜市の保育コンシェルジュについて、現在奈良市の受付等で実施されていることと変わらないと思いますが、もっと突っ込んだ内容で実施されるのですか。同時に子育て支援コーディネーターとありますが、保育等をご存知ない方が講習を受けただけでは難しいと思います。保育士ですら難しい仕事なので、講習をどの程度受け、どこまでの資格でこのコーディネーターを育成されるのかをもう少し詳しく聞きたいです。

事務局 保育コンシェルジュについては、現在窓口で入所申込みを受付している時に、できるだけおせっかいを焼くような気持ちで対応していますが、利用者に向けて十分なアセスメントを行いながら、その方にあったプランを決めるためにじっくりと話をしていくことが必要だと思いますが、現在のところはそこまで深く掘り下げることができていないので、専任の職員を置いて、寄り添うような気持ちで対応させていただきたいと思います。

事務局 子育て支援コーディネーターの養成や資格についてですが、拠点のスタッフによるコーディネーターや、行政が直接行うコーディネーターであったとしても、かなりの知識や行政との連携も必要になってきますので、各制度の知識や相談の内容も複雑になりますし、個人情報の管理など難しい面があります。そこをいかに養成していくか、26年度1年間をかけまして、研修の機会等を検討し、資格の制度も併せて、私たちも含めて勉強・研究して責任を持ってコーディネーターを養成していかなければいけないと思っています。

2. 第2回事業計画策定部会の審議報告について

事務局より、10月4日に開催した「第2回事業計画策定部会」の審議内容について、資料3に基づいて報告を行った。

〔質疑・意見の要旨〕

大方会長 特に前回の部会で決定したことはありませんが、簡単に言いますと、次世代育成支援行動計画が平成26年度末に切れるので、今の次世代計画と次の子ども・子育てに関する事業計画をうまく接続する形で作っていかうということが一番の主題となります。できれば見やすい形のものがないという話もありましたが、次世代計画は冊子とリーフレットの両方ありますので、よければ確認していただきまして、残すべきもの、新たに実施したほうがいいもの、リーフレットの作り方等に関する意見もあればいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

3. ニーズ調査中間報告について

事務局より、9月27日から10月17日までの間で実施したニーズ調査の中間報告について、資料6に基づいて説明を行った。

〔質疑・意見の要旨〕

浜田副会長 平成20年の次世代後期計画のアンケートと比較して見ていますが、ひとり親家庭等の細かいクロス集計を同じような体裁で出していきたいと思ひます。

例えば2ページの母親の就労状況を見ると、小学生の保護者で5年前はフルタイム勤務が18%だったものが今は23.6%で、アンケートを書いた人がそうだったということで実態とは違ひかもしれませんが、5年間の変化を見たいと思ひます。5ページもそうです。平成20年度は認可保育園を利用したい数は27.6%だったものが、今回は0～2歳であれば53.5%と倍近くになっていますので、それについても見たいと思ひます。11ページについても5年前と比較すると、地域子育て支援センターで5年前は1.7%、つどいの広場が3%、子育てスポットが5.7%だったことからすると、ニーズをきちんと掘り起こしている気がします。13ページは、バンビーホームの過ごし方が28.3%ですが、5年前の12%から言うと3倍近いということです。そして最終ページの「不安がある場合の相談相手」という設問では、地域子育て支援拠点という回答が、平成20年は1～2%だったものが、13.9%になっているということから見ても、きちんとしたものをつくればニーズが掘り起こせるということが5年前と比較しても分かるかと思ひます。

和田委員 目に付いたところですが、アンケートの4ページ目、「定期的な教育・保育事業の利用の有無」というところで、0～2歳で利用する必要がないと回答された方が46.1%います。これは恐らく、多くは母親がみているから利用する必要がないということだと思ひますが、それに対して8ページ

目の「幼稚園利用者の預かり保育の定期的な利用の理由」で、一番多い回答が「自分の時間をつくりたいため」で50%という数値で、さらに12ページの②「一時預かり等の利用の目的」では、0～2歳児と3～5歳児で「子どもの習い事、リフレッシュ目的」が一番多い回答になっています。また、議題1にありました「地域の子ども・子育て支援の充実」の中で主に幼稚園就園前の0～3歳の子育て世帯への支援となるものは、⑧子育て短期支援事業（ショートステイ）や⑨ファミリー・サポート・センター事業、⑩一時預かり事業になると思いますけれども、リフレッシュ目的で使いたい方は、0～3歳でニーズがあると思います。資料の文言を見る限りでは、休息ややむを得ない用事のために使ってくださいという書き方をしていますが、0～3歳の幼稚園に通っていない家庭、主に母親が子どもと離れる時間がない中で、休息ややむを得ない時だけではなく、リフレッシュに使うこともできますよというような発信をしていただければ0～3歳の親御さんのしんどさは解消されるのではないかと思います。

亀本委員

一番気になったところが奈良市の子育て環境の満足度のところで、学年が上がるにつれて満足度が薄くなっているという結果です。これだけでは評価しにくいと思いますが、国の施策が待機児童に焦点が当り、次世代計画でも特定事業のほとんどの支援が数値目標を含めて未就学の子どもになっています。誰もが育児の入り口で悩みますが、小学校・中学校・高校と学年が上がるにつれて、子育てに関する悩みが増えていきます。その辺に対してのアプローチをぜひ、この子ども・子育て会議でもしっかり具体化していかないといけないと感じました。

もう一点、ぜひ次世代育成のビジョンを踏襲していただきたいと思います。子どもの教育や子育てに関しては、5年や10年の短期スパンではなく、どのような大人に育てて欲しいのかということを目標にして、議論していかなければいけないと思いますので、ビジョン作りのところからしっかり議論して、その流れを踏襲していただきたいと思います。

計画の評価については、次世代計画でも議論に出ています、数値目標だけを見て達成したといっても、実際に利用されている方や市民から見てよくなっていったかという、アンケートだけを見れば耳の痛い話になってしまうので、評価こそ利用者の視点で満足度に重点を置かなければいけないと思いますし、PDCAということであれば、提供する側だけの評価というのはおかしいので、このことは次世代計画の会議でも事業計画の部会でもそういう意見が出されていますので、ぜひ利用者の視点で評価していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

北岡委員

私も同意見です。私は奈良市で子育ての最中ですが、とても子育てがし

やすいです。だからこそ、奈良市の子育て環境の満足度が低いことに驚いています。ただ、下の子どもが生まれてから幼稚園に入園して、奈良市ではいろいろな支援があって、利用していて助かっている部分がすごく多いのですが、小学生のお兄ちゃんに対しては、学校の教育のことでつまずいたり、お友達のことつまずいたりしても、市役所の方と話をする機会や支援が小学校に上がってからは全くありません。小学生になると満足度がだんだん減少しているのは私と同じ気持ちの保護者が多いのではないかと感じました。

「なら子育て情報ブック」ですが、いろいろな情報が載っており、何もしてくれないという前にこの本を見るといいのではと思います。私は幼稚園からいただいたのと小児科に置いてあるのを見たことがあります。これをもっと皆に見ていただいた方が、奈良市が取組をたくさんやっていることが分かると思います。

岡本委員　今回は主に未就園児のニーズ調査になっていて、多様な保育ニーズについて焦点を当てるところだと思いますので、フルタイムで働いている人とのクロスを小まめに行って欲しいと思います。例えば、病児・病後児保育や土日の長時間保育ニーズはフルタイムで働く人に特化していると思いますが、年齢別だけで見るとほとんどニーズがないように見えてしまいます。しかし、フルタイムの病児・病後児の保育ニーズは高いはずですし、そこを丁寧に拾って形として見えるような集計の仕方が必要だと感じました。一方で、短時間の保育ニーズはないかという、そうでもなく、ここからでも分析を導き出せると思いますが、例えばフルタイムではないけれども、週3日で数時間ぐらいの保育ニーズがあると見えてきます。年齢別だけでなく、フルタイムで働いている、働いていないという形でも見てみたいと思いました。

亀本委員　両親揃っている家庭とひとり親家庭とでは違いが出ているのか、その項目立てで集計して欲しいです。需要の高いところでサービスを提供していくことは非常に大事なことだと思いますが、一方では自治体が行う制度なので、セーフティネットというものをしっかり考えておかないと、特に現在子どもの貧困が問題化しており、国でも子どもの貧困対策法が可決されました。親の経済状況はすごく子どもに反映してしまいますが、今は貧乏ではなく貧困という形で現れており、世代間連鎖になり、ただお金がないだけではなく心まですさみ、いろいろな困りごとが出てくるということで社会的な問題として捉えていかなければいけないので、一般的に需要の高いところだけが重点となると非常に大事なことが欠落してしまうのではないかと危惧しています。

西山委員 延長保育事業について、利用実績のところでも述べた利用者数が91,000人とすごい人数に及んでいます。民間保育園25園中23園が実施している延長保育とはどのような状況なのでしょう。おそらく限られた方々が何度も利用していると思いますが、現状を教えてくださいたいと思います。

藤本委員 私の園では朝7時半から夜7時半までお預かりしており、延長の対象は基本的に6時半からですが、利用される方は大変多いです。以前は3歳以上の子どもの延長保育が多かったのですが、最近は0歳児が多くなりました。記載されている数字に関しては、これぐらいはあるという印象で、保護者の状況においては、職種によっては時間が遅くなることもあり、これを夜8時に延長時間を延ばしても、状況は変わらないと思います。

以前から申し上げているとおり、これだけを念頭において事業をすることなく、子どもの視点で上手くバランスを取って欲しいと思います。私は保育園では、保護者には少しでも時間があれば早く迎えに来ていただいて子どもとの時間を取って欲しいといつも言っています。

栗本委員 私自身は、子どもを保育園に預けて延長保育を利用している母親です。なぜそうなるかという、パートやアルバイトでも、9時から5時半までの勤務時間になります。私の場合は、奈良市ではなく大和郡山市で仕事をしているため、5時半まで仕事をしていると帰りは6時を過ぎてしまい、延長保育になってしまいます。フルタイムだと、どうしても延長保育になってしまいますので、そのようなところで延長保育を利用する方が増えているのではないかと経験上思います。

掘越委員 数値の上では少数であっても、丁寧に見なければいけないところは重視して解決すべきだと思います。例えば、フルタイムやパートの形でのクロス集計は非常に重要なことだと思いますし、あとは5ページの「④定期的に利用したい教育・保育事業の希望」のところ、小規模な保育施設、家庭的保育、事業所内保育施設等々がある中で、余り大きい数字ではないかもしれませんが、新たなニーズの掘り起こしや数値の策定をするためには、このようなところも非常に重要なところかと思っています。

横尾委員 乳幼児の家庭訪問ということで、乳幼児の虐待のニュースで家庭訪問ができていないということをよく聞きますが、逆に約2%の家庭訪問ができていない家庭に対しての状況や今後の対応などを聞かせていただきたいと思います。また、資料6について、アンケート調査の中に育児休業や短時間勤務制度などの職場の両立支援制度についての内容があったと思います。

ので、そちらの集計についても教えていただきたいと思います

事務局 家庭訪問ができていない家庭への対応についてですが、要因のほとんどが訪問拒否になります。何度も訪問したり電話を入れても、なかなか受け入れていただけません。当然そのまま放置することはできませんので、被虐待児童対策地域協議会と連携を取りまして、現状の確認に努めているところです。子どもの状況については、基本的に4か月という期間がありますが、若干過ぎても必ず子どもの状況を把握しているという状況です。

事務局 職場の両立支援制度については、別途資料という形で提出したいと思います。

竹村委員 全体的に見てよくまとめていると思いますが、気になるのが最後のところです。子どものことについては配偶者とともに育てていかなければ誰も育ててくれませんが、相談相手がないというところで、0%が当たり前の項目で1%強も出てくるという状況があり、隣近所あるいは頼る人がいない人が少しでもいるということが気になります。そのようなところから犯罪や色々な問題が起きて、それが大きく報道されている点が非常に気になるところです。

また、バンビーホームをもっと充実させなければいけないと話題になる割には、家にいることが多いということです。家で何をしているのかが気になります。バンビーホームは今後利用者が増えていく予想をしているものの、高学年になると非常に低くなる点が気になります。奈良市の子どもは学力的にも低いと言われてきている点でも非常に気になります。

4. その他

奈良市より次回会議の日程について説明を行った。

資料	【資料1】奈良市子ども・子育て会議委員名簿 【資料2】子ども・子育て支援新制度と奈良市の取組状況について 【資料3】第2回事業計画策定部会の審議報告 【資料4】事業計画素案の骨子作成に向けた基礎資料について 【資料5】奈良市次世代育成支援後期行動計画の施策の体系 【資料6】子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査結果報告書（速報値）
----	---